２０２７年度　教育学部　帰国生入試 問題用紙

受験番号					
氏名					

生涯教育学専修
「 日本語 」

採　点　欄

問題　次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

思考とは、推論と同一視できない、もっと複雑な心の働きである。ギルバート・ライルという哲学者は、私たちの多くが思考と呼ばれる活動に関して、カテゴリーの錯誤と呼ばれる誤りを犯していると指摘している。すなわち、行為の中には、複雑さの階層があり、たとえば、歩く、食べる、座る、つぶやく、などの行為も、そこにはさまざまな身体部位の運動や動作が含まれているが、それでも比較的に単純な行為である。それに対して、交渉する、実験する、統率する、検査する、などの行為には、さまざまな下位の行為が含まれている。「交渉する」という行為には、書類を作成する、情報を取る、連絡をとる、仲間と打ち合わせをする、相手と面談する、作戦を練り直す、などの行為が含まれる。それらの下位の行為のなかにも、さらに下位の行為が含まれている。たとえば、「書類を作成する」にしても、「用紙を手にいれる」、「書き込む」、「修正する」「提出する」などの行為が含まれる。

ライルが指摘していることは、「考える」と私たちが呼んでいる行為は、「歩く」や「座る」のような比較的に単純で基礎的な行為ではなく、むしろ「交渉する」のような一連の複雑な行為の集合を指しているということである。では、「考える」の下位集合となっている諸行為とはなんだろうか。そして、それらの下位集合である諸行為は、どのような形で「考える」としてまとめられているのだろうか。

手がかりとして、たとえば、日本語での「思う」と「考える」という言葉の使い方に注意してみよう。「思う」は、［ A ］想起や思い出すことに近い行為であるのに対して、「考える」はもっと［ B ］な行為である。たとえば、「故郷を思う」と「故郷を考える」とを比較してみるとよい。前者では、故郷のことを思い出し、回想に耽ったり、想像したりするような行為であろう。しかし後者であれば、再開発であれ環境保護であれ、故郷の地域に何かの問題が生じていて、それに対して何かの方策を考案するとか、あるいは、自分の故郷の歴史や文化について調べてみたり、レクチャーを受けてみたりといったことが想定される。「考える」の方が、より活動的で、目的を持った行為であると言えるだろう。

考えるとは、何かの問題を解決しようとする行為である。さて、ここで私たちは、子どもの哲学の推進者がしばしば批判する、教師が誘導する（イ）擬似的な対話と比較しながら、思考とは何かについて考えてみよう。

学校の授業では、すでに教師はある正解を持っていて、生徒をそちらに導くような形で質問と応答のやり取りを行うことがある。たとえば、道徳の授業で教師が「嘘をつくのはよくない」という結論に到達したいために生徒に投げかけるような質問は誘導的である。そうした偽の対話では、まず、嘘の定義については明示されることなく、すでに定義は共有されているという前提で話が進むであろう。世辞や誇張、冗談、楽しみのためのサプライズ（本人に隠して誕生日会を準備など）が嘘かどうかは検討されないのはもちろん、事実の誤認や勘違い、あるいは自己欺瞞を嘘と呼ぶべきかどうかも話題に上らせない。嘘をつくことで害のあるケースが主に取り上げられ、教師が求める結論から見て派生的と思われる質疑は省かれ、あるいは無視されて、あらかじめの結論に到達するだろう。このような誘導的な質疑応答は、真の議論ではなく、そこでは生徒をほとんど考えることがない。それ以前に、生徒はやる気を大幅に減じるであろう。

では、教師があらかじめの結論に導くことなく、いやそもそも本当に「嘘をつくのはよくない」のかどうかが分からず、それを生徒と一緒に検討したくて、質疑応答をする場合はどうだろうか。対話がはじまると、教師が「ところで、嘘って何かな」と定義するように促しさえすれば、生徒たちは右であげた嘘の定義や範囲をすぐに問題とするだろう。少し時間が経つと他の生徒たちが手をあげて、嘘をつく動機や意図を問題とするようになり、「嘘をついたときに問題となるのは動機とか意図だけかな」と教師が呟けば、たちまち嘘をついたことの帰結についても検討が始まるだろう。そして(ロ)動機で判断するか、帰結で判断するかといった倫理学ではおなじみの論争も生じるであろう。さらに時間が経てば、それまで黙って聴いていた生徒が「そもそも嘘をつくことがどれほど重要な倫理的問題であるのか、もっと優先すべき道徳的価値はないのか」などといった、これまでの議論の根底を問うような発言をするだろう。これらはすべて、小学校高学年で実際に出された発言であり問いである。

教師は「嘘をつくのはよくないか」という問いに含まれるテーマの多さに圧倒されながらも、生徒の議論を何

２０２７年度　教育学部　帰国生入試 問題用紙

受験番号					
氏名					

生涯教育学専修
「 日本語 」

とか整理して、「全部は無理だから、今回はこの点だけを考えよう」などと提案して、生徒の同意をとり、ひとつの問いについて集中的に議論するように促す。いくつかの対立軸が生まれ、一通りの発言が終わると沈思黙考の時間が到来する。いくつかの的外れな意見や質問が出て、発言者が自ら言葉を引き取ったり、「それは今の話とは結びつかない」などという評価が出たりして、質問は取り下げられる。再び沈黙が続く。別の発言者が、「関係ないかもしれないけど」という自信のない枕に続いて自分の意見を言い、他の生徒が「いや、どこかで関係しているし、結構、重要だと思う」といった発言をすると、教師は「私も何となくそう思うけど、どの辺がいいアイデアになるのかな。誰か分かりますか」などと再び小声で語りかける。生徒たちはいくつかの発言をもう一度思い出し、議論の流れを整理し、発言を分析しようとうつむいている。諦めがちの生徒もいて、足をブラブラさせている。教師は誰かが発言しないか、チラチラと生徒の顔色を見回している。もちろん、自分が生徒よりもよい意見を持っているわけではない。すると、教室の時計が授業の終了時刻を知らせる。

（ハ）実際の対話はこのように進行する。この実際の過程と比べると、プラトンの描く（ニ）ソクラテスの問答はかなり誘導的であり、またスムーズに進行しすぎる。実践家なら、それがフィクションに過ぎないと実感するであろう。

（河野哲也『人は語り続けるとき、考えていない－対話と思考の哲学』岩波書店、2019、61-64 頁より抜粋）

問１　空欄Ａ・Ｂに入る語句の組み合わせとして最も適切なものを選択肢から選び、記号で答えなさい。

ア　漠然とした　／　目的志向
イ　漠然とした　／　論理的
ウ　感情的な　／　目的志向
エ　感情的な　／　活動的
オ　受動的な　／　論理的
カ　受動的な　／　活動的

問２　下線（ロ）「動機で判断するか、帰結で判断するかといった倫理学ではおなじみの論争」に関連して、行為の結果として得られる幸福の大きさを重視し、その最大化を善悪の判断基準とする考え方として、最も適切なものを選択肢から選び、記号で答えなさい。

ア　義務論
イ　自然法論
ウ　社会契約説
エ　功利主義
オ　徳倫理学

問３　下線（ニ）ソクラテスの問答に関して、ソクラテスの「産婆術」とはどのような方法か。50 字程度で説明しなさい。

問４　下線（イ）「擬似的な対話」と下線（ハ）「実際の対話」では、教師の役割にどのような違いがあるか。本文に即して、100 字程度で説明しなさい。

問５　下線（ハ）「実際の対話」では、なぜ人々の「考える」という行為が促されると考えられるか。本文をふまえ、あなたの考えを 300～400 字程度で述べなさい。

２０２７年度　教育学部　帰国生入試 解答用紙

受験番号					
氏名					

生涯教育学専修
「 日本語 」

採　点　欄

裏面使用可

ここから記入すること ↓

ここから下には記入しないこと